



西郷南洲翁揮毫

ホームページ検索  
南洲吟道会と入力

## ご挨拶

理事長 吉永龍暘  
会長 吉永龍奏

明けましておめでとうございます  
会員の皆様には、お健やかに新年をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。また、昨年は会の活動に対し、格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

誠に残念ながら、西谷龍邦様、横山龍治様の訃報に際し、生前に賜りましたご功績とご尽力に、深く感謝と敬意を表する次第でございます。ここに謹んで哀悼の意を表します。私どもは、お二人が遺してくださった歩みと志を胸に刻み、今後とも会員の皆様とともに、楽しく吟じ、吟道の普及と向上に努めてまいれる所存でございます。

本年も変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げますと共に、皆様のご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

### お詫びと訂正

前号の会報「敬天愛人」第62号8ページ下段の「高齢者特別表彰

(スーパードイヤモンド表彰)」において、岩井龍絢様のお名前が欠落し

ておりました。ここにお詫び申し上げます。訂正致します。正しくは、赤池龍徳様と岩井龍絢様のお二人です。

会報 「敬天愛人」第六十三号

発行日 令和八年一月十五日

編集人 南洲吟道会 広報局 手塚憲龍

発行人 南洲吟道会 理事長 吉永龍暘・会長 吉永龍奏

発行所 〒一六五・〇〇三五 東京都中野区白鷺二・三四・五

### ◆訃報 西谷邦江(龍邦)様

令和七年九月七日早朝、急逝されました。九日に通夜、十日に告別式が行われ、家族葬にて、さくら町斎場において荼毘に付されました。享年八十一歳。南洲吟道会在籍三十二年でした。

南洲吟道会一同より、また、吉永龍暘・龍奏連名、龍暘会より長友龍瑤、永田龍游、山田龍璽、野澤純祥、大塚龍優の各氏により、供花をお供え申し上げます。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

今夏の吟道大学においては、たいへんお元気に受講され、打ち上げにもご参加くださり、楽しいひとときを共に過ごしました。

「先生、広島を楽しんでください」とお別れしたのが、結果として最後となつてしまいました。誠に

残念でなりません。理事として、また指導局として

多大なるご尽力を賜り、龍暘会所属として長

年にわたりご協力くださいましたこと、心より感謝申し上げます。

誠にありがとうございます。



ありし日の元気な西谷さん

## 故西谷さんを偲ぶ

龍陽会 永田龍游

記録的な猛暑となりました令和七年の夏も、漸く九月を迎え、何とか厳しい残暑も過ぎ易くなるのでは・・・と思つて居りました時、西谷龍邦さん急逝の報に接し、龍陽会一同、驚きの余り信じることが出来ませんでした。九月から又ご一緒にお稽古出来るものと、疑いもしておりませんでしたから。西谷さんは、何事にも根気強く取り組む方で、柔らかな美声で龍陽先生の熱心なご指導に何度も復唱なさつていた姿が目には浮かびます。又、長期間にわたり指導部長として、春秋の昇段審査の準備等にご尽力下さいました。そして、神宗流の詩舞でもご活躍なさいましたが、令和七年春季温習会での舞姿（『富士山』）が見納めとなりました事、とても残念でございます。

本当に、呼べども還らぬ人となつてしまわれたのですね、西谷さん!!  
悲しみは付きませんが、龍陽会一同、心よりご冥福をお祈り申し上げます。どうぞ安らかに眠り下さい。

令和七年晩秋

合掌

## ◆訃報 横山治安（龍治）様

横山治安（龍治）様が、去る十月二十七日（月）、九十三歳にてご逝去されました。慢性気管支炎の療養中、コロナ罹患六日目で旅立たれたとのこと。秋も深まり霜の降りる折、奥様・横山喜代子様よりご連絡を頂戴いたしました。故人は本会相談役、また八王子会会長として三十余年にわたり吟道に専念され、会の隆盛に多大なご尽力を賜りました。高い人格とご精進は、私どもの範とするところでございます。会より生花を供し、故人のご功績を偲びつつ、心よりご冥福をお祈り申し上げます。（猪浦龍雅記）



平成 21 年頃の横山さん

## 追悼

横山龍治先生の突然の悲報に接し、会員一同驚いております。ご逝去を悼み、謹んで心よりお悔やみ申し上げます。九十三歳でいらつしやいました。寂しいです。

吉永龍陽

平成七年一月十五日入会、在籍三十年でした。八王子南洲吟道会会長として、三代目の会長を務め、会の発展に貢献されました。体調を崩してから、九年に成りますが、その間も会のために会費を納め続けて下さいました。お休みされても二カ月に一回は先生より、お電話を頂きました。常に熱心に勉強され、優しい一面も持ち合わせている方で、高潔なお人柄に、八王子会員共々尊敬致して居りました。痛惜の念でいっぱいです。横山先生どうぞ安らかに眠り下さい。ご活躍頂き、ありがとうございました。

## ◆七年度東京地区コンクール予選

令和七年七月十二日 文京シビック小ホール  
六名入賞 プログラム順

小櫻梢 木村陽子 吉澤強 藤田幸 山田恵美子 中川晋也  
審査委員 吉永龍陽 応援 大塚龍優 長友龍瑤

## ◆七年度日本コロムビア東京地区コンクール

令和七年七月十二日 調布グリーンホール  
和歌入賞 永井福枝

## ◆七年度日本吟道夏季大学「朗吟で昭和一〇〇年 戦後八〇年を偲ぶ」

令和七年八月二十二日 北トピア

第一講 誰もが願う平和への道

「昭和天皇御製 世の中も」「この青葉」

第二講 英霊に捧げる鎮魂の情

「九段の桜」「この生命」

第三講 伴奏CD「カノン」の使い方徹底ガイド

「伴奏に調和した美しい吟詠を楽しみましょう」

「カノン使用上のポイント」「長さの合わせ方」

特別講座 吟詠のための発音と発声法

「発音について」「発声法について」

「日常気を付けたこと」「発声法の実技研修」

科学的指導法の確立を目指して

「吟を学ぶ上での用語の意味について」

「用語の意味について」

第五講 戦争の悲惨さを吟で体験し語り継ぐ

「平和を願って新吟道範典に掲載された(戦争関連作品)」

「基本は やはり「読み」―作者の思いを代弁するつもりで」

受講生

吉永龍暘 吉永龍奏(欠) 猪浦龍雅 手塚憲龍 茂呂真龍(欠)

大塚龍優 山田龍璽 吉澤強龍 春山美祥 市橋富洲 永井福枝

長友龍瑤(欠) 西谷龍邦 小櫻梢城 小室慶龍

(申込順)

昨年は二日にわたり講座が有りましたが、今年度より一日に成り、これだけの内容になりました。来年は八月二七日の予定に成りましたので、楽しみに、是非大勢の受講を願います。(龍暘)

◆日本伝統文化吟友会関東大会

令和七年八月二十三日(土) 八王子いちようホール

出演者 山田恵美子 茂呂肇 吉澤強

漢詩一般四部入賞 全国大会出場権獲得 茂呂肇

◆広島出雲大社分祠神楽殿にて 吉永龍奏詠う

「被爆八十年記念奉納演奏会」

神事に込める誠く平和への祈りを音に託して

令和七年九月四日(木) 十八時三十分開演

出席者 吉永龍暘 木村旦城 永井福枝

協賛者 吉永龍暘 永井福枝 木村旦城 児玉龍智 藤田龍香 田丸久水

手塚憲龍 大塚龍優 新妻眞祥 長友龍瑤 永田龍游 西谷龍邦

山田龍璽 野澤純祥 猪浦龍雅 早乙女恵龍 佐藤千祥 杉本陽祥

吉澤強龍 岩田幸祥 春山美祥 安齊治城 長島恵洲 市橋富洲

吉永浩和 小室慶龍 岩井龍絢(申込順)

◆第二十四回 長友倫夫リサイタル 手塚憲龍「祝詩」を吟詠

令和七年九月二十四日 八王子いちようホール

長友大兄の米寿を祝す 手塚憲夫贈

歌謡一路 幾春秋 嬴(か)ち得たり 清声 匹儔(ひつちゅう)を絶つ  
重八(ちようはち)に躋(のぼ)り来たるも猶豊饒 更に祈る椿寿 百年の遊

◆第六十二回 国分寺市民文化祭

令和七年十月十九日 国分寺市いずみH

総括 手塚憲龍 司会 佐藤千祥 春山美祥

舞台 吉澤強龍

出演 市橋富洲 安齊治城 春山美祥

岩田幸祥 吉沢強龍 杉本陽祥

佐藤千祥 早乙女恵龍 手塚憲龍

猪浦龍雅

◆秋季昇段審査会&コンクール出場者練習会

令和七年九月二十八日(日) 白鷺高齢者会館

七年度秋季昇段審査合格者

初伝 内川研洲 二段 大北正吟 三段 市橋富洲 六段 足立英水

六段 田丸久水 八段 小櫻梢城 皆伝 永井瑞祥 準師範 岩田幸祥

九段 佐藤千祥 範師 茂呂真龍

◆日本コロムビア吟詠音楽会

七年度南関東ブロック大会 「未来に繋ごう!吟剣詩舞」

令和七年十月五日(日) 品川区立荏原文化センター大ホール

大会役員 相談役 吉永龍暘 接待・救護 吉永龍奏

舞台 小櫻梢城名流吟詠く華の競演く春日山懐古 小櫻梢城

四地区合連吟 小督の局 小櫻梢城

◆創立四十五周年記念

令和七年度日本吟道全国吟詠コンクール 決選大会

令和七年十月六日(月) 北区・北とびあ つつじ小ホール

漢詩・奥伝以上の部 藤田幸 山田恵美子 吉澤強 中川晋也

和歌の部 小櫻梢 新体詩の部 木村陽子

以上六名が東京代表に選ばれました。

応援 吉永龍暘 吉永龍奏 猪浦龍雅 手塚憲龍 長友龍瑤 児玉龍智

大塚龍優 齊藤龍優 田丸久水 永井瑞祥 市橋富洲

舞台音響 手塚憲龍 舞台進行 吉澤強龍



大会終了後 国分寺洲神会一同

入賞者 和歌の部 第三位 「しらとりは」 小櫻梢

漢詩奥伝の部入賞 「相模湖の恨み」 山田恵美子

九十九名中、以上二名が入賞を勝ち得ました。

おめでとうございました。今後のご活躍を祈ります。

日本吟道吟士権者として「涼州詞」を小櫻梢城さんが披露されました。

### ◆令和七年度 東京地区 連合会 吟詠フェスティバル

令和七年十月十三日 (祝) 江戸川区小松川区民館ホール

独吟の部 「子夜呉歌」 永井福祉 「青葉の笛」 田丸久水

「安宅の関」 秋山政水 「廬山瀑布を望む」 木村旦那

「名槍日本号」 中川晋城 「心に太陽をもて」 小櫻梢城

「山行」 春山美祥 (家兄に寄せて志を言う) 野澤純祥

「秋思」 吉沢強龍 「二度とない人生だから」 大塚龍優

「相模湖の恨み」 山田龍瓊 「九月十三夜陣中の作」 児玉龍智

「海よ」 猪浦龍雅

歌謡吟詠の部 「大漁吟じ込み」 加藤龍孝 齊藤龍優 齋藤和洲 澤口三水

合連吟の部 「本能寺」 稲葉龍誠 手塚憲龍 萩野進龍

夢のコラボ

「居合 英信流掟枝五本」 手塚憲龍 「赤垣源藏徳利の別れ」 佐藤千祥

出演者全員二十五名による合吟「夜墨水を下る」

### ◆七年度度 指導者育成推進講習会

令和七年十月二十四日 (日) 十三時より 小松川区民館

出席者名 吉永龍暘 猪浦龍雅 手塚憲龍 大塚龍優 山田龍瓊

萩野進龍 永井瑞祥 小櫻梢城

欠席者名 吉永龍奏 長友龍瑤

### ◆茂呂肇様 入賞獲得 おめでとうございます。

令和七年十月二十六日 倉敷にて

日本伝統文化吟友会吟剣舞コンクール全国決勝大会に於いて

漢詩一般四部入賞

### 秋のイベントを終えて

国分寺会 佐藤千祥

昇段試験の時期になると、受験資格者名簿を渡され、毎度、「試験を受けるように」と言われ続けてきました。しかし実力が伴わないので、ずっと辞退してきました。それに私の雅号「千祥」は「千の幸せ」という意味で、とても気に入っているので変えたくなかったのです。ところが、令和七年度の昇段試験審査表を見ると九段を受験しても雅号が変わらないので、それではと先生の説得に根負けして受験することにしました。

課題吟は「枕草子」と「方丈記」、「百人一首」とあり、文章としては「枕草子」の方が好きですが、「方丈記」は平松教場の時、先輩が受験の為に吟じていたのを聞いていたので、「方丈記」に決めました。さて当日ですが、受験者名簿では十四番。ところが会場に来て受験する人が少なかつた為、順番を把握しておらず、呼ばれるまでのんびりしてしまいました。当日受験する人の名簿のプリントがあれば助かりました。また、私はマイクキラーで上手く調整ができていないので、最初に調整の仕方を説明して欲しかったです。そんな小さなトラブルを経ての吟詠でしたが、課題吟を暗誦していたものの、不本意な吟で終わりました。龍暘先生から暖かいご助言をいただき、ホッとした次第です。ありがとうございました。



秋季昇段審査会にて

次に十月十三日の吟詠フェスティバルについてです。昨年はフラダンスや日本舞踊等多彩な演目があり、「何でも良い」「時間制限もない」と先生と話している内に「じゃあ講談やるわ」と、つい口がすべってしまいました。いきなり講談をやると言ったのは無謀でしたが、コロナ禍以前に少しかじっていたのです。吟の「赤垣源藏徳利の別れ」は教場で練習した事があり、講談の台本もあったので、少しアレンジして臨みました。しかし当日はマイクの位置が悪く、半分ほど声が会場に届いてなかったとの事でした。そんな時

は会場係か連絡係が素早く司会者に伝達していただけたらと思いましたが、あ、又、マイクのトラブル……。折角一生懸命練習したのに不発に終わり、残念無念。「これで最初で最後だ」と思いました。ところが後日、先生から「来年は南洲吟道会が仕切る」と聞き、「えっ！ じゃあ国分寺会も頑張らなきゃ」と言ってしまった。もし元気であれば、再度講談に挑戦しようと思います。同じ轍を踏まないよう、今度は立って講談し、マイクを正面にしています。今、私は国分寺の恋ヶ窪公民館で「ひいらぎ教室」と言う講座を月二回、六月から受講しています。各月で教科が変わり、十二月は講談です。それがあるので申し込んだのです。講師は神田桜子先生で、楽しみにしています。

詩吟の教本に「徳川家康公遺訓」「心に太陽をもて」「漫吟」「歩いてゆけなければ」「ありがとう」等々、私の心を叱咤激励してくれる吟が沢山あります。これらの吟に接すると、私はめげない！前を見る！と奮起するので、何せ佐藤千祥九十才に手が届く年令になり、気持ちばかりが先走っております。

南洲吟道会の皆様にはご迷惑をかける事が多いと思いますが、今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

### 巡り会えた事に感謝

洲神会 木村亘城

思い起こせば、昨年の晩秋から仲冬にかけ、迷走しておりました。諸事情で前の詩吟教室を退会させていただいておりました。わたくしは、やはり 絶対 間違いなく 詩吟を続けたい と 熱い思いのもと お教室情報を もとめておりました。まさしく 蝶のごとく(ひらくあ ひらと 舞い ゆくわ (北村透谷 蝶のゆくへ より) あっちへ ヒラヒラ こっちへ フラフラ したい。折しも各区主催の秋の文化祭たけなわの(たぶん)時期 よっしゃああ！ 意気込み過ぎた掛け声も虚しく すぐ撃沈 開催2区だけなんです。吟剣詩舞区民のつどい 「区って23よね。 えっ どういう事 誰か 教えて〜」 実際に拝聴 ↓ 見学 ↓ 入会判断 考えていた図式が ものの見事に 机上の空論 化 しかし しかしですよ。検索履歴が 盛り盛り盛りだくさん 立ち直りが早

かったわたくし メールを送り(返信がない) 電話をかけても(現在使われていませんが多数) やつと やつと 辿り着いたのが 日本吟道学院で ございました。「教室はホームページのつてますよ。こちらからも紹介できます。」と

ありがたいお言葉。おかげさまで これでもかと 思いつ切り たつぷり しつかり 教室見学 でき 南洲吟道会と 出会える ことが出来ました。めでたしめでたし。 ですが ではなく わたくし なかなか お応えできないのです。先生方の 熱い が すぎる 熱心なご指導に ピンポイントで射られた 数多 の矢、 刺さりまくりますが、一本 一本 確実に 消化吸収できまます様 ピヨピヨひよこの私 (えっ 蝶じゃなかった?) (忘れてくださいその単語、今から ぴよひよこのひよこです。) 精進してまいりたいと心の底からおもっております。先生方の日頃のご指導皆様とご一緒できます幸せで 贅沢な 時間感謝申し上げますとともに いつまでも どこまでもついでまいります ピヨピヨひよこです。



全国吟詠コンクール決選大会にて

### 奉納靖国神社

あやめ教場 小室慶龍

令和七年十月十七日〜十九日までの三日間靖国神社にて秋の例大祭が開催されました。まだ児玉教場にご指導頂いて月日も浅い私に参加のお話を頂き 驚き戸惑いました。児玉龍智先生から色々とお話をお聞きしました。祖国の 為に尊い命を捧げられた「英霊」の御霊を奉慰致しました。私の兄二人も 靖国神社に奉慰しています。

九段下駅から靖国神社へは、長い坂道を登り、玉砂利を一步一步踏みしめ、大鳥居にたどり着きました。一礼し感無量でした。能楽堂に着くと小雨が降り始め心配しましたが、テントが張られており、四、五人の方が待っている様子でした。私は「母を奉じて嵐山に遊ぶ」を奉納させて頂きました。



靖国神社能楽堂にて

南洲吟道会に入会し、故菊田龍瑞先生にご指導頂きました。私はまだまだ未熟な詩吟ですので、例大祭の参加はお断りしましたが「残りの人生」「詩吟の人生」・・・靖国神社の御霊に心を込めて吟じ、私にとっての奉納吟は一生忘れられない舞台でした。

### 自由詩&短歌

剣友と交わす、雑談。

ふと語った、五十七八年前の大学の日々。代々木八幡の薄灯りのスナックで帆船のラベルをかかげたスコッチを友と酌み交わした夜があった。

あの頃の酒は若さの匂いがして胸の奥に静かに沈んでいる。

数日後。剣友が手渡してくれた一本のカティーサーク。深い色の瓶の向こうに遠い青春がゆっくり揺れた。

昨夜、湯割りの湯気のむこうにあのスナックの扉がひらく。帆船は変わぬ姿で長い時間を越え、しみじみと私の心に帰ってきた。

代々木にて 飲みしは遠き 五十年 今も帆船の 香湯割りに沁む

### 鷺宮教場 手塚憲龍

## 令和八年一月以降行事予定

- ◆新春賀詞交歓会 一月十一日 日本吟道会館
- ◆東京地区一般講習会 二月十五日 小松川区民館
- ◆日本吟道青少年&壮心全国大会 三月二十八日 日本吟道会館
- ◆本会春季昇段審査会&講習会 四月予定 白鷺高齢者会館
- ◆本会春季温習会 五月十七日 野方区民ホール
- ◆国分寺市春季大会 五月十七日 国分寺市いずみホール
- ◆日本吟道全国大会 五月二十日 曳舟文化センター
- ◆本会総会&講習会 六月予定 白鷺高齢者会館

## 編集後記

明けましておめでとうございます。 昨年は、長年ともに吟じてきた会員二名を見送ることとなりました。お二人のこれまで紡がれてきた声と心は、今も会の活動の随所に息づいています。ここ数年にわたり悲報が相次いでおります。会の高齢化は否めず、会員数は年々減少し、新しい仲間への加入も思うに任せないのが現状です。しかし、詩吟が育んできた漢詩の精神や声を通じた交流の価値は、決して色あせるものではありません。先達の歩みを胸に刻みつつ、残された私たちが一吟一吟を大切に、次の世代へと静かに、しかし確かに伝えていくことが、何よりの供養であり、会の未来をつなぐ道であると感じています。(広報局)

広報局長 手塚憲龍 広報部長 萩野進龍  
編集部長 佐藤千祥 HP担当 菊地 務